

「分子病態セミナー」を開催

2016年12月13日

12月13日（火）に、がん進展制御研究所4階会議室において、学校法人学文館 上武大学学長、医学生理学研究所所長である澁谷 正史先生を招いて、分子病態セミナーを開催しました。

セミナーでは「**VEGF-VEGF** 受容体シグナル系と腫瘍血管新生」という演題で、**VEGF-VEGFR** シグナルの中心的役割や **VEGF** 系シグナルの特徴と血管新生阻害薬の開発、そして残された問題点を中心に講演をしていただきました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約 25 名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



VEGF-VEGF受容体シグナル系と 腫瘍血管新生

澁谷 正史 先生

学校法人学文館 上武大学 学長

医学生理学研究所 所長

日 付:平成28年12月13日(火)

時 間:午後17:00~18:00

場 所:がん進展制御研究所 4階 会議室

がんの増殖・転移に血管系が重要であることは以前より示唆されていたが、25年ほど前までは分子レベルの血管調節機構はほとんど不明であった。1989年にVEGF-Aの遺伝子が単離され、1990年に我々が新規受容体キナーゼ遺伝子Flt-1を報告し、Flt-1が最初のVEGF受容体であることが示された。その後、VEGF,VEGFRファミリーが血管・リンパ管新生の基本的な調節機構であることが明らかとなった。今回のセミナーでは、VEGF-VEGFRシグナルが腫瘍血管や腹水貯留に中心的な役割を果たすこと、VEGF系シグナルの特徴と、血管新生阻害薬の開発、残された問題点などをお話したい。

皆様奮ってご参加ください。